

W-5

アルタイ型言語における節連結の意味とその形式的特徴

The semantics and formal features of clause linking in Altaic-type languages

蔡熙鏡・山田洋平・日高晋介・吉岡乾

企画趣旨

本ワークショップでは、いわゆる「アルタイ型」の類型的特徴を持つ3つの言語（モンゴル語、ウズベク語、ニヴフ語）を対象に、節連結における意味と形式の対応関係を Dixon (2009) の枠組みに基づいて整理し、そこから浮かんでくる諸問題について検討する。

Dixon (2009) は、節間の意味関係を表すためにどのような文法的手法が用いられているのかについて述べている。具体的には統語レベルの主節／非主節と意味レベルの焦点節（中核的な行為・状態を表す節）／支持節（時間的環境・条件・前提・前置きなどを表す節）の対応関係、節連結の標識がどちらの節に標示されるか、節連結に用いられる標識の形態・統語的特徴は何かなどに注目して調べている。意味に関しては、6つの大きな意味タイプ（I時間、II帰結、III潜在的帰結、IV追加、V代替、VI様態）に分け、さらに細かい16の下位タイプに分類している。Dixon (2009) に従って、それぞれの言語について整理した結果、次のような問題が浮き彫りとなった。

- i) 多機能を持つとされている形式が表す意味は、本当に同じ1つの形式が持つ意味なのか。
- ii) 多機能を持つ形式の意味解釈に関わる意味・文法的な要因は何か。

問題 i) に関しては、モンゴル語の動詞接辞 -xAAr について共時的な観点から分析を行っている発表1で扱われる。問題 ii) に関しては、ウズベク語の「時間的連続」と「条件」の意味を表す形式について述べている発表2とニヴフ語の多機能を持ついくつかの形式を取り上げている発表3で、それぞれ扱っている。

ワークショップの構成

企画：蔡熙鏡（東京外国語大学 AA 研共同研究員）

司会：山田洋平（東京外国語大学世界言語社会教育センター）

コメンテーター：吉岡乾（国立民族学博物館）

発表者：山田洋平、日高晋介（国立国語研究所プロジェクト非常勤研究員）、蔡熙鏡

[1] 司会者による趣旨説明（山田洋平）

[2] 発表者による研究発表

発表1：モンゴル語の動詞接辞 -xAAr（山田洋平）

発表2：ウズベク語における時間的連続を表す節連結について（日高晋介）

発表3：ニヴフ語の節連結 —意味と形式—（蔡熙鏡）

[3] コメンテーターによるコメント（吉岡乾）

[4] 全体討論・質疑応答

各発表の要旨

発表1 山田洋平 「モンゴル語の動詞接辞 -xAAr」

本発表ではモンゴル語の動詞が取る形式 -xAAr について検討する。まず節連結に用いられる諸形式を Dixon (2009) の枠組みに従って整理した上で、問題となる形式が複数の意味分類にまたがって位置づけられることを確認する。そしてモンゴル語の -xAAr という形式は形動詞接辞 -x に造格接辞 -AAr が付されたものと、分析不能なものとして別個のものであると考えるのが妥当であろうことを論じる。

-xAAr は目的「するために」と相対的時間「すると、したら」といった意味でよく用いられる。後者の意味で用いられる場合、所属のカテゴリを付したり、未来形動詞接辞 -x を他の形動詞接辞に置き換え、否定形にしたりすることが可能で、形動詞接辞と造格接辞が結びついたものであると見うる。他方、目的の意味で用いられる場合はこうした操作が不可能であることから、共時的には形動詞接辞と造格接辞というように分析することはできない。

発表2 日高晋介 「ウズベク語における時間的連続を表す節連結について」

本発表では、ウズベク語（チュルク諸語南東語群）の「時間的連続」と「条件」の関連性について議論する。Dixon (2009: 14) は、多くの言語で「相対的時間」を表す 'when' 節と条件節には密接な関わりがあると述べている。しかし、「時間的連続」と「条件」の関連については何も指摘されていない。他方、ウズベク語の先行研究では「時間的連続」を表す形式は *V-(i)sh bilan*、*V-(i)b*、*V-gach* とされており、先行研究中の用例には「条件」とも捉えられる用例がある。そこで、本発表では、母語話者への聞き取り調査を行うことで、ウズベク語の「時間的連続」と「条件」の関連性について明らかにする。考察では、「時間的連続」と「条件」の連続性に焦点を当て、「時間的連続」を表す形式を用いる際には①前件の成立が前提とされること、②前件と後件に時間的な前後関係が必要とされることを明らかにした。したがって、今回調査した「時間的連続」と「条件」との関連は、Dixon (2009: 14) によって指摘された「相対的時間」と「条件」の関連よりも限定的であると結論付ける。

発表3 蔡熙鏡 「ニヴフ語の節連結 –意味と形式–」

本発表では、Dixon (2009) の意味分類に従い、ニヴフ語の意味タイプとそれを表す形式との対応関係についてまとめる。主な内容は次のとおりである。i) ニヴフ語は節連結に用いられる副動詞接尾辞を数多く持っており、ほとんどの意味タイプの節連結に副動詞が用いられる。ii) 節の並置という手法は一般的ではなく、「離接」を表す疑問文に用いられるのみである。iii) 副動詞以外に名詞化+格助詞も一部の意味タイプに用いられるが、意味と形式のあいだで1対1の対応関係を示す。iv) 多機能を持つ形式の意味解釈には、同主語/異主語、ヴォイスの操作、動詞の意味、モダリティー、テンスが関わっており、節間の意味解釈に影響を与えている。

参考文献

Dixon R. M. W. (2009) The Semantics of Clause Linking in Typological Perspective, pp. 1-55 of *The Semantics of Clause Linking: A Cross-linguistic Typology*, edited by R. M. W. Dixon and Alexandra Y. Aikhenvald. Oxford: Oxford University Press.